

◆育苗は温度管理注意！田植えは天気が良く暖かい日に行いましょう！◆

- 気温の変化が大きいことから苗の生育が不安定になっています。田植えまでもうひと頑張りなので、こまめな温度管理を心がけましょう！
- 田植えは気温の低い日に行うと代枯れの発生、活着の遅れ、養分の消耗により分けつが抑制され、茎数の確保がしにくくなるため、初期生育確保のためできるだけ暖かい日を選んで行いましょう！



1. 育苗中のポイント

(1) 播種から15～20日後に生育が不安定になりやすくなります！

苗は播種後2週間頃に種もみの養分を使い切り、根から吸収する養分のみで体を維持し始めますが、この頃生育が不安定になりやすくなります。そのため、育苗期間中で最も温度管理に気を使い、苗にストレスをかけないようにしましょう！

(1.5葉期～3.0葉期まで：日中25℃以上にならないように、夜間は5℃以下にならないように管理をしましょう)

(2) 苗代は過湿、ハウスは乾燥に注意！

苗代は雨が多くなると水分過多になりがちです。そのため、排水不良にならないよう排水路を整備しておきましょう！また、ハウスは温度が上がりやすいことから、苗箱の水分をこまめにチェックし乾燥しすぎないように注意しましょう！

2. 初期病害虫防除（箱処理剤）

| 薬剤名 | 使用量(箱当り) | 使用時期(田植え) | イネロイムシ | イネヌゾウムシ | いもち病 |
|---------------|----------|-----------|--------|---------|------|
| パダン(粒) | 80g | 田植え当日 | ○ | ○ | — |
| ジャツジ(箱粒) | 50g | 田植え3日前～当日 | ○ | ○ | ○ |
| フイゲットバイソン(箱粒) | 50g | 田植え3日前～当日 | ○ | ○ | ○ |

3. 田植え～活着期のポイント

(1) 安定した収量を確保するために植付けの深さは3cm程度、坪当たりの株数80株を目標に田植えを行いましょう！

(深植えすぎると分けつが遅れますので注意をしましょう)

(2) 温暖な日は2～3cm程度の浅水で、日中の水温と地温の上昇を図り、寒冷時は4～5cmの深水にして、苗を保護し、

活着・初期生育の促進を図りましょう！

4. 除草剤の散布

除草剤をうまく効かせるコツ

- 除草剤は、早めの散布を。(代掻きから10日以内を目安に使用期間内で早めに散布しましょう。)
- 毎年雑草が多い所では、初期剤・中期剤の体系処理を行いましょう。
- 1日に水位が2cm以上低下するような水もちが悪い所では粒剤を使用するようにしましょう。
- 除草剤の効果を安定させるためには、やや深めの水位5cm以上を最低3日間は保ち、散布後7日間は落水やかけ流しは行わないようにしましょう。

● 散布後の落水、かけ流しはダメ！



● 整地、代かきはていねいに



ヒエ



ホタルイ

